



<b>臨床心理学</b>	単位数	履修方法	配当年次
	<b>4</b>	<b>R or SR</b>	<b>2年以上</b>
科目コード	<b>FF3503</b>	担当教員	<b>清水めぐみ</b>

※会場によりスクーリングを別教員（横山知行先生・小山智子先生）が担当いたします。

## ■科目の内容

臨床心理学（clinical psychology）の「臨床」は、ギリシャ語の「寝台」（クリネー）から生じた語といわれています。僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手をさしのべ、魂の世話をしたことに臨床の起源があるのです。現代では、魂の世話（卑近なことばでいえば心のケア）が必要なのは、死を目前にしている人たちだけではありません。だれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときにその人が自分らしい道を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。

心理学的な援助を提供するためには、まず相手について理解しようとするのが不可欠です。人をわかろうとするということは、自分の心を通じて行われるので、まず、自分をわかろうとすることが大前提になります。

また、援助は、援助を提供する側からの一方通行では成り立ちません。援助を提供する側と援助を受ける側がお互いに参加する関係があって援助は成り立ちます。臨床心理学では、相互性や関係性についても学んでいきます。

## ■到達目標

- 1) 臨床心理学の目的と方法論について、説明することができる。
- 2) 自分の心の動きについて、臨床心理学の理論を用いて記述することができる。
- 3) 心理アセスメントの概要を把握し、心理臨床活動における位置づけを説明できる。
- 4) 臨床心理学的援助の枠組みについて説明できる。

## ■教科書

神田久男編著『心理臨床の基礎と実践—現代社会の人間理解』樹村房、1998年  
(最近の教科書変更時期) 2011年4月

## ■教科書への訂正事項

この教科書は1998年に出版されているため、2002年に変更され現在は「統合失調症」とされる疾患が「精神分裂病」「分裂病」と記載されています。訂正して読んでください。

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理臨床の実践とは (序論)	臨床心理学が心理臨床という実践に基づいた学問であるという特徴を把握し、実践領域を踏まえてその目的と課題を理解する。	臨床心理学において重視される個々人と関わることにおける個別性や関係性、さらには倫理面についての視点を持つ。具体的な実践領域について学ぶことでより把握しやすくなるだろう。
2	精神分析学派の人格論①フロイトの精神分析 (1章1)	臨床心理学的心理援助において、さまざまな形で礎となっている精神分析の理論の概要を学ぶ。心的構造論、リビドーと精神・性発達論、防衛機制についての考え方を理解する。	19世紀末から20世紀初頭にかけて、フロイトが患者たちとの関わりの中で見出していった心の動きについての考え方は、自分自身と照らし合わせながら考えることで理解しやすくなるだろう。
3	精神分析学派の人格論②マラーの発達論、③クラインの対象関係論、④フロイト理論の発展と修正 (1章1)	精神分析の発展の中で、実際に子どもはどのような体験をしながら発達していくのか、それが子どもに限らず大人の心においていかに雛形となっているかを、主としてマラーとクラインの考え方を材料に理解する。あわせて、フロイト以降の精神分析の展開についても触れる。	子どもとして人はどのような体験を経て成長していくのか、そしてまたその体験が長じてからもいかに人の根底を形成しているかを想像しながら、自分自身について理解を深めるつもりで学ぶとよいだろう。
4	ユング派の分析心理学 (1章2)	生物学的な基盤を強調したフロイトに対して、心そのものの深みを強調したユングの心理学について、タイプ論、元型論およびセルフと個性化の観点から学ぶ。また、これらの理論と不可分であるユングの心理療法論について理解する。	心や自分自身を考えたときに、因果論的思考だけでなく目的論的思考が重視される。ユングが提示した考え方に触れることで因果論的思考に囚われすぎない姿勢をもつことが大切だろう。
5	現象学的自己理論 (1章3)	人間性心理学が登場した歴史的流れについて理解し、中でもロジャーズの提示した理論に焦点を当てて、クライアント中心療法、フォーカシングについて学ぶ。	歴史的な経過において、人間の健康で成長に向かう部分に着目した場合の人間観やセラピー理論について学び、体験の重要性について目を向けるとよいだろう。
6	人格の行動論的理解 (1章4)	学習理論を用いて行動の変容をめざす方法について学ぶ。そもそも心理学でいう「行動」とは何か、その変容のためにどのような方法が従来考えられてきたのか、またその限界は何かを理解する。	基礎的な心理学の理論を理解していることが重要。論理的に考えるとどのような変容が人に生じるのか、またその実践における留意点も頭の隅におくとよいだろう。
7	臨床心理アセスメント～心理検査法による臨床心理アセスメント (II章1～4)	臨床心理アセスメントとはどのようなものであるかを臨床心理アセスメントの方法(観察法、面接法、心理検査法)という視点から概要を理解する。さらに、心理学のさまざまな知見を活かした心理検査とはどのようなものか、特に倫理面の配慮を中心に学び、代表的な心理検査を通じて、心理検査についての理解を深める。	アセスメントと診断や判定のちがいをよく把握しよう。さらに、場面に応じて適切な方法について区別する視点をもつこと、特に心理検査とはどのようなものかを理解することが重要だろう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	面接・治療法 (II章5)	臨床心理学的援助において、面接（対象者と接することや話すこと）はその活動において非常に重みを持っている。面接の構造や、心理療法を規定する具体的要因およびクライアントと治療者との関係性、さらにグループ・アプローチに着目し、単に話をするだけではない面接の意義について理解する。	心理学的援助となりうるような面接のための構造や、それを踏まえたうえで行われる面接において生じてくるさまざまな動きについて、記述的なだけでなく、より具体的に想像しながら学ぶとよいだろう。
9	子どもの心理臨床 (III章)	人は、人生を通じて発達・成長しつづけ、その各段階ごとに現れやすい特徴がある。発達の視点を学び、この章では特に胎生期から児童期後半の、人のありようについて理解する。	観察されうる発達・成長と、個々の内面で生じている発達とを関係づけてとらえ、この時期に見られやすい問題についてどのようにとらえられるのか考えられるとよいだろう。
10	スクールカウンセリング (IV章)	学校というある種のコミュニティに導入されている心理臨床活動について学ぶ。	人の発達という視点とコミュニティに関わるという視点からとらえられるとよいだろう。
11	青年期の心理臨床 (V章)	9回の「子どもの心理臨床」を受けて、青年期について学ぶ。青年期の困難と達成されるべき課題について理解する。	精神分析における発達理論の発展と関連づけてとらえられるとよいだろう。
12	神経症・人格障害と心理臨床 (VI章)	心理臨床において踏まえておく必要のある心の健康や心の苦痛について理解する。	神経症、人格障害などは、どのようなことであるのか、それぞれを区分してとらえられるとよいだろう。
13	家族の問題と心理的援助 (VII章)	個人と家族との関わりと個人を支える家族の力を引き出し、伸ばすことについて理解する。	個人の苦痛を周囲がどのように支えていくのかという視点を身につけられるとよいだろう。
14	まとめ①基礎的人格理論と子どもの心理臨床、青年期の心理臨床および神経症・人格障害と心理臨床との関連	基礎的人格理論は、人の発達・成長、特に各段階に固有の課題や生じやすい問題に関する理解と有機的に連関している。双方の観点から、さらに多角的に人のありようを理解しようとする視点について知る。	教科書I章とIII、IV章を関連づけて学ぶとよいだろう。
15	まとめ②基礎的人格理論と心理臨床の方法との関連	基礎的人格理論は、心理臨床の実践と結びついている。心理臨床の実践が、基礎的人格理論とどのように結びつき何を重視しているのかを知る。	教科書I章とII章を関連づけて学ぶとよいだろう。

■レポート課題

1 単位め	臨床心理学の目的について述べよ。加えて、心理面接における面接の構造と心理療法を規定する具体的要因について、実践を想定しながら述べよ。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
-------	--

2 単位め	<p>マーラーのいう再接近期危機について説明せよ。また、青年期の課題と危機について、エリクソンの考え方に沿って述べたうえで、青年期が「第二の個体化」と位置づけられる点について検討せよ。</p> <p>※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可</p>
3 単位め	<p>心理アセスメントの目的と方法および留意点について概要を述べよ。さらに、面接によるアセスメントに加え、心理テストによるアセスメントを実施する必要性があるのはどのような場合か、またその時の手順および留意点について述べよ。</p>
4 単位め	<p>無意識について、フロイトの考え方とユングの考え方を比較して論じたうえで、無意識の動きについて身近な例を挙げて説明せよ。</p>

## ■アドバイス

まず、テキストを通読してください。その上で、テキスト以外に臨床心理学を概観している文献や課題に関連する文献の複数にあたりながら、課題に取り組むようにしましょう。テキストだけでは、いずれの課題にも取り組むことができません。

また、レポート作成にあたっては、形式が重視されます。日本語の文章を書く上で必要な、原稿用紙の使い方や段落の作成などが不適切である場合には、内容が適切であっても評価されません。特に、文献やウェブサイトからの引用については、出典を明示してください。『学習の手引き』などで示されている引用の方法、文献の挙げ方の形式が整っていない場合には、内容は優れていても再提出となります。十分に注意を払ってレポートを作成してください。

### 1 単位め アドバイス

臨床心理学という学問について概観して、おおよそのイメージをつかみましょう。教科書全体を見通してみることが必要です。そこで「目的」についてまとめておきましょう。次に、臨床心理学という「面接」とはどのようなものか、その構造という観点から詳細を見てみましょう。加えて「面接」が用いられる心理療法を規定する具体的要因について概観しましょう。臨床心理学を構成している要素のうち、相手と会う（面接をする）のは大きな要素です。そのような場面で自らが心理臨床家としての役割を負う際にどのような感覚を抱くかを想像し、その感覚も含めて課題をまとめましょう。

### 2 単位め アドバイス

人を理解し援助を提供しようとする際、その人がどのようにして成長してきたのか、成長の過程でどのような積み残しがあるだろうか、という視点はとても大切です。臨床心理学では、さまざまな発達・人格理論がありますが、マーラーは乳幼児が成長していく過程でどのような体験がなされているのかを観察しながら理論化しました。マーラーが分離一個体化について述べてから半世紀以上を経過した現在でも、この視点は臨床心理学の現場で多に援用されています。マーラーの発達理論全般を概観し、再接近期危機についてまとめましょう。

ところで、思春期・青年期は「疾風怒涛の時代」で、その時期を乗り越えるのは、だれにとっても実は大仕事です。そのため、乳幼児期に経験した再接近危機が再燃し、葛藤が激しくなります。青年期の「第二の個体化」について調べ、その時期の課題と困難について把握することを通じて、人間の成長のプロセスと成長の過程にともなう課題と困難があるという視点を身につけていきましょう。

### 3単位め アドバイス

臨床心理学というと、ともすると「カウンセリング」とダブってとらえられるかもしれませんが。臨床心理学を構成する大きな柱として「心理アセスメント」があります。援助を必要としている（かもしれない）人が、どのような人で、何ができて、何が難しいのか、抱えている困難は何なのか、どのような社会資源が活用できるのか、どのような援助が可能なのかを見通していくのが心理アセスメントです。その作業の全体像を把握し、課題の項目に沿ってまとめてください。教科書だけでは、レポートを作成できません。ほかの文献にもあたって、その人を理解していこうとする作業、どのような援助が可能なのか見極めていく作業について概観しましょう。

### 4単位め アドバイス

私たちは、自分の思っているような自分ではないということにままならなさを感じます。自分は自分の知っている自分だけではない、という視点が導入されたことで、人を多面的かつ複層的にとらえ、より複雑な人間のありようが想定されるようになりました。無意識という考え方はフロイトによって広く提唱され、私たちも日常生活でよく使っています。臨床心理学という無意識とはどのようなものなのか、フロイトとユングの考え方を比較することによって、理解の糸口をつかみましょう。また、自分の無意識の動きが現れている行動（行為、感情、考え方など）について例を挙げながらまとめてみましょう。

## ■科目修了試験 評価基準

---

試験100%で評価します。具体的には、試験で解答を求められている点について、教科書で学んだ内容のうち該当する事項を中心に、教科書に記載されている学術用語を適宜用いて論述できているかという観点から評価します。

## ■参考文献

---

- 伊藤良子編著『臨床心理学——全体的存在として人間を理解する』ミネルヴァ書房、2009年  
鈴木 晶『図解雑学 フロイトの精神分析』ナツメ社、2009年  
山中康裕編著『心理学対決！フロイトvsユング』ナツメ社、2010年  
沼 初枝『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2010年  
森谷寛之『臨床心理学 心の理解と援助のために』サイエンス社、2005年